

財団法人 国際親善協会

平成18年度事業

平成18年度の事業は、以下の3件である。

1)「第31回ジャパンウィーク 2006年スペイン・サラマンカ」主催

期 間：2006年11月21日～11月26日
開催地：スペイン・サラマンカ

2)「日韓交流おまつり2006」主催

期 間：9月23日(土)・9月24日(日)
開催地：ソウル市鐘路区大学路

3)「ザ・フレンドシップ・フォース」活動支援事業

期 間：通年
対 象：全国各フレンドシップフォースクラブ

1)「第31回ジャパンウィーク 2006年スペイン・サラマンカ」

期 間：2006年11月21日～11月26日

開催地：スペイン・サラマンカ

第31回ジャパンウィーク 2006年スペイン・サラマンカ 開催概要

1. 開催地 : スペイン・サラマンカ
2. 開催期間 : 2006年11月20日(月)～11月26日(日)7日間
3. 開催規模 : 日本側参加者 1,500人
開催国側参加・見学者 41,000人
4. 主催 : 財団法人 国際親善協会
5. 開催国側
主催 : カステーリャ・イ・レオン州、サラマンカ市
6. 後援 : 在スペイン日本国大使館、文部科学省、経済産業省、国土交通省、
在日スペイン大使館、スペイン政府観光局、独立行政法人国際観光振興
機構、独立行政法人国際交流基金、独立行政法人日本貿易振興機構、財団
法人自治体国際化協会、財団法人地域伝統芸能活用センター、社団法人日
本海外協会、ビジット・ジャパン・キャンペーン実施本部
7. 協賛 : 日本航空、日本興亜損害保険株式会社、株式会社みずほコーポレート
銀行、西日本旅客鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社
株式会社日本旅行
8. 協力 : 株式会社 ジェーシービー
9. 事業目的 : 市民レベル、地域レベルでの文化・スポーツをはじめとする多岐にわた
った交流を通じて、日本と開催国間の友好親善、相互理解を促進し、更
には両国の地域社会づくりに貢献すること。
10. 事業内容 : (1) 文化交流事業
:(2) スポーツ交流事業
:(3) 自治体間・都市間交流事業
:(4) 学校間交流事業
:(5) 経済交流事業・その他交流事業

．全体の総評

スペインの北西部に位置するカスティーリャ・イ・レオン州の古都サラマンカ市はスペイン最古の歴史を誇るサラマンカ大学が創設され、ヨーロッパ屈指の学問・文化・歴史の街として世界的に知られ、旧市街はユネスコ世界遺産に認定され、また欧州文化都市にも選ばれている。

この歴史背景をもつサラマンカ市において2006年11月20日から11月26日までの7日間「わたり」第31回「ジャパンウィーク 2006年スペイン・サラマンカ」が開催された。さまざまな文化種を通して日本の素顔を紹介する市民レベルでの国際文化交流を行うこの事業に、日本全国より45団体・1,500人におよぶ方々が熱き思いを胸に、サラマンカを訪れた。

また、スペイン側からも各イベントに多岐にわたり25団体230人のご参加をいただいた。7日間「わたり」行われた各イベントプログラムはサラマンカ市民はじめスペイン国民が多数来場し、ジャパンウィーク史上かつてない大盛況であった。

今回はジャパンウィーク20周年を記念して三つのテーマを中心に取り組んだ。

1. 現地参加型の「双方向の交流」

これについては現地側からも25団体 230人のご参加をいただき、日本側からの一方的な日本文化の紹介だけでなくとどまらず日本からの参加者の皆様もスペイン文化を体験しながら日本側とスペイン側、双方の交流が実現できた。

2. 学生主体型の「双方向」交流プログラム/学生フィエスタの実施

「学生フィエスタ」の実施にあたっては、漫画等の現代文化を題材とし、主に日本・スペイン双方の学生を中心とした交流を実現できた。

3. 学校訪問交流プログラムを含む交流プログラムを充実

各プログラムには現地ボランティアのみならず、当協会の運営スタッフを事前にご派遣し、綿密な打合せを行った。そのことにより従来よりスムーズかつ、密度の濃い交流プログラムとなった。

以上の事により、従来のジャパンウィークよりも各プログラム内容が充実し、日本側およびスペイン側双方の皆様が大変満足できるイベントとなった。

今後も日本文化の紹介にとどまらず、双方向の交流の充実を図り、それにより相互理解を深めることによって国際親善に貢献してゆきたいと考える。

事業の実施概要

1. ジャパンウィーク運営組織について

当事業は日本・スペイン両国に各々実行委員会を組織し、日本側は愛知和男/財団法人国際親善協会会長が実行委員長を務め、スペイン側はフォアン・ピセンテ エレラ カステリーヤ・イ・レオン州知事を実行委員長とし、両国事務局互いの協力のもと、開催会場・施設の決定や告知 PR 活動・イベントの取り纏めなどを推し進めた。特に開催会場・諸施設については各実施予定プログラムの主旨をサラマンカ市に配慮していただき、天候も考慮していただきながら多岐にわたる開催会場を準備して頂いた。

また州政府と市政府の行政が主体となって事業を推し進めた事も今回の成功の要因である。日本より都合6回に亘る現地打合せ、電話および電子メールでの情報交換・諸々の交渉を行い、相互の協力体制を着々と築き上げ成功へのステップを確実なものにして行った。特に現地にてジャパンウィーク開催直前の11月6日にはスペイン側実行委員会による記者会見を設定していただき、日本側からも参加し、これを契機に一気にジャパンウィーク開催の機運を高めていただいた。日本側では昨年の夏より全国に招致活動・告知活動を開始し、並行して関係資料の作成・説明会の実施などを行い、参加団体応募の後は各団体と参加プログラム、荷物の輸送の打合せ、各公式行事やイベントプログラムのアレンジなど数多くの業務をこなしてきた。

2. 広報・告知について

現地側広報・告知に関しては、カステリーヤ・イ・レオン州およびサラマンカ市および在スペイン日本国大使館をはじめとする現地関係各機関にご協力いただいたおかげでジャパンウィーク史上記録に残る観客動員数を記録することができた。

下記がカステリーヤ・イ・レオン州およびサラマンカ市に展開していただいた広報・告知活動である。

1) メディアでのプロモーション

新聞・ラジオを中心としたPRをサラマンカ、バヤドリッド、サモラにて展開していただいた。

新聞：11月18日～24日、上記3都市の主要紙にそれぞれ22回のPR記事を掲載

ラジオ：11月18日～24日、上記3都市のラジオ局にそれぞれ168回のスポットPRを実施

2) PR ツール作成

ポスター(70cm×33cm) 5,000枚

リーフレット 30,000部

バナー 主要ロータリーに103枚

日本からの参加者が宿泊するホテルに歓迎ボードの設置

3) ジャパンウィーク期間中の取材

新聞社3社、ラジオ局3社、テレビ局2社の取材があった。特に、取材をした新聞社のトップ紙面にほぼ毎日、日本からの参加者の記事および写真が掲載された。

3. セゴビアでのレセプション、オープニングフィエスタ・公演 展示 実演 交流プログラム、スペイン・ジャパン・フィエスタ(クロージング) 等について

今回のジャパンウィークの大きなテーマは「双方向の交流」であったが、従来日本側からの参加だけであった野外イベント、舞台公演、展示・実演についてスペイン側からの団体にも参加していただき、また出演者、展示者間の交流が深まるように舞台公演会場、展示・実演会場にてミニ交流会を開催した。

また、今回、現代の日本文化をテーマとした学生フィエスタを開催し、サラマンカ大学の学生が自主的な運営が基となる初めての交流プログラムに日本・スペイン双方の参加者が楽しんだ。イベントとしてはカステーリャ・イ・レオン州のレセプションがセゴビア・アルカサル城にて11月20日(月)に開催されジャパンウィークの幕があげた。翌21日(火)からはサラマンカがジャパンウィークの会場となった。同日、マヨール広場(野外)にてオープニングフィエスタを開催し、カジノ・デ・サラマンカでのオープニングレセプション、リセオ劇場での初日の舞台公演と続いた。舞台公演は25日(土)まで開催した。展示・実演は国際会議展示場にては22日のリボンカッピングで始まり26日(日)まで行った。サンチェス・パライソ多目的ホールでは25日(土)に武道演武会およびワークショップを実施した。

交流プログラムの学校訪問については8団体が参加し、音楽交流プログラムは2団体、民俗舞踏交流プログラムは1団体参加し、各団体ともに肌と肌をふれあう心のこもった草の根交流に大感激していた。スペイン・ジャパン学生フィエスタはサラマンカ大学の構内で2会場に分かれて、24日(金)と25日(土)の両日実施し、若者同士の交流で盛り上がった。

26日(日)にマヨール広場にて開催を予定していたスペイン・ジャパン・フィエスタ(クロージング)はスペイン側実行委員会から天候を考慮したアドバイスを受け、急遽サンチェス・パライソ多目的ホールにて実施した。また、サラマンカ大聖堂でのイベントとして23日(木)には山梨県オルガン建造家、故土氏が修復したパイプオルガンを演奏するコンサートを開催した。

毎年参加いただいている西日本友好親善訪問団は、日西センターを友好訪問し、大いに親善交流の輪を広げてもらった。

4. 在スペイン日本国大使館および現地関係各機関のご協力とボランティアの活躍

特に今回のジャパンウィークが大盛況に終えることができたのは一重に在スペイン日本国大使館の吉川大使閣下をはじめ大使館の皆様のご協力の賜物である。

また、現地関係各機関については日本人会による会の皆様への告知活動、マドリッドの在住日本人向け新聞(CS NEWS)による事前の記事掲載、在マドリッド在住の方々によるWEB上およびラジオでの告知をしていただき、日本人会および日本人学校の有志の皆様にはジャパンウィーク初日のカステーリャ・イ・レオン州によるセゴビア・アルカサル城でのレセプションにご参加いただきました。今回も数多くのボランティアの方々に協力して頂いた。ボランティアについては、サラマンカ在住のスペイン人学生、在留邦人、日本人留学生など幅広い方々が、ジャパンウィーク・スタッフの一員として朝早くから夜遅くまで本当に頑張ってくださいました。ボランティアの方々の協力無くして、ジャパンウィークの成功はありえなかったと言っても過言ではありません。

・参加団体一覧

岩手県 岩手大学民俗芸能サークル「ばっけ」 / 民舞さんさ踊り
秋田県 秋田市竿燈会 / 竿燈祭り
栃木県 津軽三味線貢清世会 / 三味線演奏
埼玉県 和紙ちぎり絵「初美会」 / 和紙ちぎり絵展示
矢部登羽 / 書道
東京都 表千家 松和会 / 茶道
コレクターギャラリー / 絵画
全日本婚礼美容家協会 / 花嫁衣装
創舞流 成城国際舞踊団 / 日本舞踊
伝統工芸 萌花 / 水引工芸
東京製菓学校 / 和菓子の実演・展示
財団法人 日本武道館 / 日本武道及び古武道の演武
有限会社マンガネットワーク / 漫画アニメ
早稲田大学書道会 / 書道
早稲田大学邦楽雑子つづみ会 / 邦楽演奏
早稲田ちんどん研究会 / ちんどん
神奈川県 声の教室ベルデ / 声楽舞踊
五洋会日本画展 / 日本画
横兵木琴クラブ / 器楽演奏
長野県 正派 雅陽会 / 邦楽演奏
岐阜県 中部百合姿きもの学院 / 着物ショー
静岡県 元気会チャッキリのりお / 即興演奏
煎茶道 静風流 / 煎茶道
愛知県 草木染め工房 しかり / 草木染め
滋賀県 紫水苑 香袋教室 / 香袋
京都府 NPO 法人 京小町踊り子隊プロジェクト / 創作日本舞踊
京都書道連盟有志 / 書道
大阪府 NPO 法人 国際芸術家協会 / 邦楽・書道
兵庫県 淡路人形浄瑠璃の世界・寺前高明のギャラリー / 淡路人形浄瑠璃絵
奈良県 華鹿 / よさこい踊り
奈良社会福祉院 佐保山大鼓隊 / 和太鼓演奏
島根県 荒茅盆踊り保存会 / 民舞
福岡県 日本伝統工芸「能面」麻生能忍展 / 能面
白山流調子会 / 木彫工芸

イベントプログラムの実施状況

州主催歓迎レセプション 11月20日 場所:セゴビア市 アルカサル城

両国実行委員会列席代表者

<日本側>

吉川 元偉 日本側実行委員会名誉顧問/在スペイン日本国大使館 特命全権大使

金井 耿 日本側実行委員会理事/株式会社日本旅行 代表取締役社長/財団法人国際親善協会理事

浜田 輝明 日本側実行委員会事務局長

<スペイン側>

ヘスス・ロドリゲス スペイン側理事/ カスティーリャ・イ・レオン州 観光省長官

参加者: 正派 雅陽会、声の教室ベルデ、中部百合姿きもの学院、早稲田ちんどん研究会、マドリッド日本人会(有志)、日本大使館関係

天候に恵まれ、参加者はアルカサル城の美しい外観を見、また城の窓から見るセゴビアの風景を楽しむことが出来た。セレモニーが終了し、会場を移してのカクテルパーティーでは、乾杯のあと、日本からの参加団体「雅陽会」の箏の演奏、「ベルデ」のミュージカル「白雪姫」の披露、地元セゴビアの音楽と踊りの披露と、参加者は飲み物とおつまみを味わいながら、それぞれのアトラクションに拍手を送って楽しんでいた。



オープニングフィエスタ 11月21日 場所:マヨール広場

両国実行委員会列席代表者

<日本側>

吉川 元偉 日本側実行委員会名誉顧問/在スペイン日本国大使館 特命全権大使

岡本 睦台 日本側実行委員会理事/日本興亜損害保険会社株炎役/財団法人国際親善協会理事

穴戸 幹尋 日本側実行委員会理事/株式会社日本航空インターナショナル 上席執行役員 東京支店長/財団法人国際親善協会理事

金井 耿 日本側実行委員会理事/株式会社日本旅行 代表取締役社長/財団法人国際親善協会理事

浜田 輝明 実行委員会事務局長

<スペイン側>

シルビア・クレメンテ・ムニシオ スペイン側実行委員会理事 / カスティーリャ・イ・レオン州 文化観光大臣
フリアン・ランサロテ・サストレ スペイン側実行委員会理事 / サラマンカ市長
ヘスス・ロドリゲス・ロモ スペイン側実行委員会理事 / カスティーリャ・イ・レオン州 観光省長官
フリオ・ロペス・レプエルテ第スペイン側実行委員会理事 / サラマンカ市助役

参加者：早稲田ちんどん研究会、矢部登羽 元気会チャッキリのりお、荒芽盆踊り保存会
秋田市竿灯会、チャロ3 グループ (ASGO / CUATRO CANOS / CHARRITA)

秋田竿燈の一部荷物の未到着で、不安要因を抱えてのフィエスタのスタートとなったが、ぎりぎりのところで間に合い、サラマンカの夜空に秋田竿燈の幻想的な光のページェントを見せることが出来、関係者それぞれ胸をなで下ろした。

文化観光大臣、市長も、辛抱強く待ってくださり、マヨール広場に竿燈が上がった瞬間、観客席からの感嘆のどよめきと、少し遅れての拍手の渦に、なにもものにも代え難い幸せを感じた一瞬であった。

オープニングレセプション

11月21日 場所：エル・カジノ・デ・サラマンカ

両国実行委員会列席代表者

<日本側>

吉川 元偉 日本側実行委員会名誉顧問 / 在スペイン日本国大使館 特命全権大使
岡本 睦台 日本側実行委員会理事 / 日本興亜損害保険会社株主役 / 財団法人国際親善協会理事
穴戸 幹尋 日本側実行委員会理事 / 株式会社日本航空インターナショナル 上席執行役員 東京支店長 / 財団法人国際親善協会理事
金井 耿 日本側実行委員会理事 / 株式会社日本旅行 代表取締役社長 / 財団法人国際親善協会理事
浜田 輝明 日本側実行委員会事務局長

<スペイン側>

シルビア・クレメンテ・ムニシオ スペイン側実行委員会理事 / カスティーリャ・イ・レオン州 文化観光大臣
フリアン・ランサロテ・サストレ スペイン側実行委員会理事 / サラマンカ市長
ヘスス・ロドリゲス・ロモ スペイン側実行委員会理事 / カスティーリャ・イ・レオン州 観光省長官
フリオ・ロペス・レプエルテ スペイン側実行委員会理事 / サラマンカ市助役

参加団体：日本26団体

無事に「オープニング・フィエスタ」を終えることができたおかげで、和やかな雰囲気でのレセプションを始めることが出来た。ほろ酔い通りに始まり、受け入れ側代表の力強いウェルカムスピーチが、出席者の気持ちを高揚させ、満足させてくれた。参町証書の授与もスムーズに進み、参加者は地元チャロの心地よいリズムによって、ワイン、ハモンイベリコに舌鼓を打ち、レセプションを十分に楽しんでいる様子が感じられた。

劇場公演

日時：11月21日(火)～11月25日(土) 場所：リセオ劇場 観客：3,000名

リセオ劇場での舞台公演5日間を振り返り、各参加団体の演技終了後の感動と感激に満ちた表情を間近に感じ、又小雨交じりの悪天候にもかかわらず、開演前から当日券を目当てに並ぶ多くの来場者を毎日のように見るなど、ジャパンウィークに対する関心の深さを知るにつれ、このイベントの成功を確言した。又観客の反応は、お祭り好きで陽気な南部とは多少異なり、穏やかな国民性をも感じられるなど、文化都市での劇場異文化交流公演は大喝采の拍手の中、幕を下ろした。

11月21日(火)

津軽三味線真清世会 元気会チャッキリのりお

ALANIMO TEATRO “Baku y los Adultos titeres”

中部百合姿きもの学院

舞台公演初日は日本の紹介映像の後、津軽三味線真清世会のメンバーによる、力強い津軽三味線の音色と繊細な琴の合奏、尺八・太鼓とのセッションによる和の競演で幕を開けた。元気会の演奏では、チャッキリのりおさんの歌と踊りが、観客全員の手拍子を誘い大いに盛り上がった。テアトロ・アラニモの2人のアクターによるマペットと文楽を取り入れた人形劇では、観客が小さな人形に釘付けとなり、最後の百合姿きもの学院による着物ショーは、筆・日本舞踊・フラダンスと日本の婚礼衣装以外にも多彩な演出が加えられたファッションショーで場内の喝采を浴び初日の幕を閉じた。



11月22日(水)

矢部登羽+元気会チャッキリのりお 荒茅盆踊り保存会

横浜木琴クラブ JUAN LUZON “magia de cerca”

司会者のコメントで脚灯が開くと舞台には、長さ10mの紙が4本、チャッキリのりおさんの幻想的な即興音楽に合わせ筆をはこぶ矢部登羽さん。書き上がった作品に会場からの喝采は終わりがなかった。

島根県出雲地方に伝わる荒茅盆踊り保存会の輪踊り。素朴ながら「一度は島根に来て一緒に踊って…」と歌う、実はストーリー性の高い興味深い盆踊りであった。休憩をはさみ舞台は、横浜木琴クラブの皆さんによるマリンバの演奏。合奏からソロ演奏と数曲を披露して頂いた。最後はJUAN LUZONさんによるマジックショー。映像を駆使し手元のアップを披露しながらも見破れないマジックに会場全体が、その指先の動きに見とれた。

11月23日(木)

全日本婚礼美容家協会 Fely Campo 正派御場会 国際芸術家協会

桜夜映像を交え、四季で構成された全日本婚礼美容家協会の着物ショーで幕を開けた。現世モデルを起用しての格調高いショーに、客席全体が感動し拍手を送った。続いてサラマンカを代表するファッションデザイナーFELY CAMPOによる2007年春夏コレクション。モノトーンを基調にしたモダンなショーに会場が沸いた。休憩をはさみ、舞台は正派御場会の皆さんによる琴の演奏で幕を開けた。優雅な和の演奏に加え、現世学生のピアノとフルートとのコラボレーションも披露され音楽の奥深さを深く感じさせられた。国際芸術家協会からは、桜夜さんの澄みきったボーカルに会場からの拍手は鳴りやまなかった。

11月24日(金)

邦楽雑子つつみの会 早稲田ちんどん研究会 SURCO Grupo Folkorico

日本の紹介映像の後、舞台では邦楽雑子つつみの会のメンバーによるつつみ、篠笛にフルートを加えた粋ことらわれないPOPな曲も交えた演奏で、観客は邦楽の楽しさを知った。つづいて客席後方から練り歩いて登場の早稲田ちんどん研究会では、その出で立ち口上に観客は大いに沸いた。休憩をはさみ、舞台は地元スペインのチャログループ、スレコが登場した。伝統的民族舞踊の概念に現代音楽をフュージョンさせたテクノチャロを披露し、観客は拍手を送った。

11月25日(土)

BANDA SINFONICA FELIPE ESPINO

岩手大学民俗芸能サークルばっけ NPO 法人 京小町踊り子隊プロジェクト 華鹿

ARTURO CARABIAS DEL REY 創舞流 成城国際舞踊団 奈良社会福祉院 佐保山大鼓隊

劇場最終日、日本の紹介映像の後、舞台はフェリペ・エスピノ交響楽団による管を中心にしたシンフォニーオーケストラのダイナミックな演奏で幕を開けた。つづいて岩手大学民俗芸能サークルばっけの皆さんは岩手県の郷土芸能三本柳さんさ踊りのリズムカルな輪踊りを披露した。

華やかな振り袖姿で登場した京小町踊り子隊プロジェクトは現代版日本舞踊を次々に披露し会場を沸かせた。よさこいグループの華鹿は、ステージにお客様を上げての縦踊りで会場全体を一つの舞台にして大いに盛り上がった。休憩をはさみ、舞台は地元スペインのアルトウーロ少年の繊細なタッチのピアノ独奏で始まった。つづいて創舞流 成城国際舞踊団による日本舞踊が披露され、劇場最後の演目佐保山大鼓隊のシンセサイザーを駆使した、大鼓演奏の舞台へと進んだ。リズムカルなバチさばきに観客の興奮は頂点に達し、惜しみなし拍手の中、劇場公演5日間の幕を閉じた。

リボンカッティングセレモニー

日 時：11月22日(水) 場 所：国際会議展示場

両国実行委員会列席代表者

<日本側>

吉川 元偉 日本側実行委員会名誉顧問 / 在スペイン日本国大使館 特命全権大使

岡本 睦台 日本側実行委員会理事 / 日本興亜損害保険会社株炎役 / 財団法人国際親善協会理事

宍戸 幹尋 日本側実行委員会理事 / 株式会社日本航空インターナショナル 上席執行役員 東京支店長 / 財団法人国際親善協会理事

金井 耿 日本側実行委員会理事 / 株式会社日本旅行 代表取締役社長 / 財団法人国際親善協会理事

浜田 輝明 日本側実行委員会事務局長

<スペイン側>

フリアン・ランサロテ・サストレ スペイン側実行委員会理事 / サラマンカ市長

ヘス・ロドリゲス・ロモ スペイン側実行委員会理事 / カスティーリャ・イ・レオン州 観光省長官

フリオ・ロペス・レブエルテ スペイン側実行委員会理事 / サラマンカ市助役

日西両国の実行委員会代表及び出展者が参列し、招待された小学生を含む来場者が見守る中でセレモニーは定刻に開始された。

日西両国の実行委員会代表紹介の後、フリアン・ランサロテ・サストレ サラマンカ市長、岡本 睦台日本側理事等がご挨拶された。双方向の交流を促進する目的で、今回から現地側の展示も併設され、日本からの参加団体と現地からの参加団体の出展名が紹介された。最後に、両国の実行委員会代表4名によるリボンカッティングにより式典は滞りなく行われた。

その後、日西両国の実行委員会代表による展示ブースの巡回が行われ、サラマンカ市長は日本からの参加者代表に声を掛けられると共に、出展物一つ一つを丹念に見学され、夕刻にも再度、展示会場を見学されるほど興味をしめされていた。



展示・実演

日時：11月22日(水)～26日(日) 場所：国際会議展示場

入場者：(延べ)

11月22日(水) 4,000名

11月23日(木) 4,000名

11月24日(金) 3,000名

11月25日(土) 4,000名

11月26日(日) 4,500名

合計 19,500名

今年の展示の特色として、双方向の交流を促進する目的で、現地側の展示も併設された。サラマンカを代表する物産の紹介及び、まんがや音楽の愛好家、スペイン盆栽協会など日本の文化に係わりのある現地参加者の展示が行われた。

また、初日と二日目のシエスタ明け、午後4時から、日本からの参加者と現地側の参加者との交流会(立ち席形式の茶話会)が催され、日西それぞれの方々がお茶と会話を楽しまれた。サラマンカの方々は、日本の文化に大変興味を持たれていて、お茶会は両日とも超満員で、和菓子、書道、彫刻、工芸などの実演にも大変多くの方々が日本からのご参加者を取り囲み、熱心に製作観察や作業に見入っていたりして、展示会場は連日大変盛況であった。自分の名前をカタカナで書かしたためにもらった紙を楽しそうにまた大事そうに見せてくれた老人の姿が微笑ましく、国際交流の素晴らしさを体感させてくれた。

煎茶道静風流 実演

展示会場初日に当たり、リボンカッティングセレモニー後、お茶会場にて招待された小学生を含む来場のお客様に、サラマンカ市長にもご挨拶していただいた。午前中は小学校を中心に、生徒さん達を1回50名程度のお手前が招待。当初、3回の予定であったが、毎回立ち見の方々が出て、入場制限をするほどの盛況で、午前中2回増やしての実演となった。午後も、お客様が競って席とりをされるほど、大変にぎわって煎茶を楽しんでおられた。



表千家松和会 実演

午前中は小学校を中心に、生徒さん達を1回50名程度のお手前が招待。会場は毎回満員で、入場制限をせざるを得ない状態だった。午後も、お客様が開場とともに、お茶会場へ走り込んでくるほどの人気で、並んで順番を待っていたらしゃった。日本からご参加された方々も、大変満足されていた。現地の方々は日本の茶道に大変興味をお持ちのようで、今回2日だけの実演でしたので、機会を逃した方々は非常に残念がっておられた。

早稲田書道会 実演

所後半にサラマンカに来られた団体で、実演団体が少なくなってしまった会場を、大学生の若いパワーで賑わせていただいた。来場者の名前を書いたためためてあげて、来場者が嬉しそうに名前の書かれた紙を持っている姿は微笑ましいものであった。

初美会 実演

旅行日程の都合で、わずかな時間での実演となったが、サラマンカ市長にもご挨拶していただき、切り絵と出展作品の紹介をしていただいた。

矢部登羽 書道 実演

舞台講演の都合で、わずかな時間での実演であったが、サラマンカ市長にもご挨拶していただくとともに、6mの書作品の紹介をしていただいた。

草木染工房 しかり 実演

布生地を使った、草木染めの行程を、実演。ご来場者にも、草木の染料を使った、搾り染めを実体験していただき、作品を持ち帰っていただいた。現地の方々も大変興味をもたれ、嬉々として染めの行程を楽しみ、出来上がった作品を大事に持ち帰っておられた。

国際芸術家協会 実演

書道作品、絵画、彫金作品、写真等で幅広く日本文化を紹介。書の実演では、毎回多くの方々を列を成して見入って、プレゼントされた作品を大事に持ち帰っておられた。

京都書道連盟 実演

京都を代表する各書道団体の多様性に富んだ書風と伝統的な書芸文化を研鑽され、多彩な作品を展示と実演で紹介。御来場された方はしばし足を止め、それぞれの作品を、筆の動きを逐うように、じっくりと鑑賞されていた。



紫水苑 香袋教室 実演

サラマンカ市長にもご挨拶していただき、香袋作品の紹介をしていただいた。また、実際に香袋の製作過程を見学していただいた。多くの来場者が、可愛い動物や花などを象った香袋作品に見入っていた。

日本伝統工芸「能面」 麻生能忍 実演

所展示会場会期、開場から終了まで全期間を通して、能面の製作過程(のみ使い)を実演していただくとともに、能をモチーフとしたカードにメッセージをしたため、来場者の方々と交流していただきました。



東京製菓学校 実演

展示会場会期、開場から終了まで全期間を通して、和菓子の製作を実演していただくとともに、出来上がった和菓子を味わっていただく、実演交流をおこなっていただきました。展示ブースにはいつも来場者が取り囲み、美しく出来上がる和菓子の、製作過程一つ一つを熱心に眺めていた。

萌花 実演

サラマンカ市長にもご挨拶していただき、水引き等の伝統工芸作品を紹介していただきました。また、水引き作品の製作過程を見ていただいたり、七夕の短冊に願いごとを書いていただきました。

有限会社マンガネットワーク

展示会場会期、開場から終了まで全期間を通して、日本の現代文化を代表する「まんが」を、映像、本、絵コンテ、絵葉書、等の素材で紹介するとともに、現地の方々とまんがを通じた交流を行っていただきました。

白山流彫刻会 実演

彫刻作品を展示する中で、実際このみで作品を作る姿を来場者が取り囲み形で見ていただく、彫刻を通じた交流を行っていただきました。

中部百合姿きもの学院 実演

旅行日程の都合で、わずかな時間での実演となったが、サラマンカ市長にもご挨拶していただき、記念写真を撮って、ご参加の皆さんは満足されていた。

淡路人形浄瑠璃の世界 寺前高明のギャラリー

初日を除き、会期中2階を占有スペースとして、ゆったり絵画を見ていただいた。訪れたサラマンカ市民は展示作品を興味深くじっくりとご覧になり、2階はゆったりとした空気が流れていた。

CLAIR 自治体国際化協会パリ事務所

所展示会場会期、開場から終了まで全期間を通して、日本の各自治体の風土、文化等をDVD映像、ポスター、小冊子(カタログ)等で紹介。

株式会社ジェシービー マドリッド事務所

今回のジャパンウィーク協力企業として、展示会場会期、開場から終了まで全期間を通して、今回ご参加された日本人を対象に展示会場内にJCB 特設カウンターを設置。

五洋会 日本画展

日本画の美の世界を、日本の「舞妓」とスペインの「ヘレナ」という2つの作品で紹介。作品「ヘレナ」は1997年スペイン・セビリア市で開催されたジャパンウィークにおいて、フラメンコダンサーを描いた作品である。2つの作品はそれぞれが向き合う形で展示され、日西の親睦・文化交流を象徴するものを感じられた。

コレクターギャラリー

日本の絵画作品を、画集に納められた一部の作品展示により紹介。来場された方々が画集により好みの作品を選び、投票用紙に記入し、投票していただいた。参加型の絵画紹介で、連日、閉館を過ぎても多くの方々が画集を鑑めながら投票用紙に向かっていった。

現地別展示・実演団体

スペイン側からは下記9団体が展示・実演に参加いただいた。

団体によっては展示のみならず、実演および試食の時間を設けていただき、日本側の展示・実演参加者および訪れたサラマンカ市民もそれぞれのブースを楽しんでいただいた。

1. CERALFARRIBES (セラルファリベス): 陶器窯元による展示とロクロ実演
2. ASOC. COMUNEROS (コムネロス自治会): 特殊レース編み、刺繍などの伝統手工芸品の展示
3. CONSEJO REGULADOR LENTEJA DELA ARMUNA : 名産品レンズ豆展示と料理試食
4. サラマンカ地方原産名産品展示
名産品の試食・試飲(クッキー、チーズ、肉類、腸詰めなど)
5. JOSE MANUEL DE BUSTOS RODRIGUEZ
伝統民族舞踊チャロに使用する手工芸楽器展示(カスタネット、太鼓、笛など)
6. KOMO TEATRO (コモ・テアトロ演劇グループ)
各種余興・エンターテイメント関連の展示と実演(舞台用メイクの実演、風船づくりなど)
7. サラマンカ盆栽協会: オリーブの木等を使用したの日本式盆栽の展示
8. ASOC. DE MUJERES LA FUENTONA (「ラ・フエントナ」婦人協会)
農村で働く女性をテーマとした写真展
9. 相業おたくグループ: 相業に熱いゆづなグループによる相業の紹介

ミニ交流会

今までのジャパンウィークの舞台公演および展示・実演参加者の皆様より日本人参加者同士の交流を持つ機会を持ちたいという希望があった。

また、今回「双方向の交流」という大きなテーマの下にスペイン側からも舞台公演 展示・実演にご参加いただいた。そこで今回、舞台公演には各公演日ごとの本番前にスペイン側の参加団体を含む全出演団体の皆様が悪談していただくために劇場裏の一角にて「ミニ交流会」を毎日設定した。サラマンカ市からも市担当者が訪れ、参加者同士の紹介を含む悪談をした。また、展示会場でもカフェテリアにて「ミニ交流会」を開催しお茶をのみながら日西双方の参加者が悪談した。

武道演武会

11月25日 場所： サンチェスパライソ



両国実行委員会列席代表者

<日本側>

高村 正彦 日本武道代表団団長 / 衆議院議員

吉川 元偉 日本側実行委員会名誉顧問 / 在スペイン日本国大使館 特命全権大使

浜田 輝明 日本側実行委員会事務局長

<スペイン側>

フリオ・ロペス・レブエルテ スペイン側実行委員会理事 / サラマンカ市助役, 文化観光担当

アルバロ・ヘレラサラマンカ市助役, スポーツ担当

ミケル・イグナシオカスティーリャ・イ・レオン州 スポーツ長官

参加団体：派遣日本武道代表団 73名 観客数：4500名

今回の特別企画、地元武道家を対象にした「合同稽古会」が、午前におこなわれた。

300名を超える地元武道家が、スペイン全国規模で集まり、日本からの先生の指導を熱心に学び取ろうとし、内容の充実したすばらしい稽古会だった。メインの「演武会」も、大観客の声援に応じて、武道の神髄を手際よく披露することが出来た。今回、各演武の披露時間を短くした甲斐があり、最後まで充実した空気を保て、素晴らしい内容となった。演武会終了後すぐに、観客を対象にした「ワークショップ」を1時間開催したが、子供を含めあふれんばかりの参加者でにぎわい、廊下まで使用した。地元柔道連盟、空手道連盟の絶大なる協力が今回の大成功の大きな要因になった。

交流プログラム

1. 学校訪問

初美会

日時：1月21日(火) 学校名：DIVINO MAESTRO 小学校

交流場所：学校内教室 交流対象：小学生 1年生~2年生 45名

交流前に参加者が舞台上に登壇した際に、生徒手作りのカエルの織細工と、合唱をプレゼントしていただいた。ぼたん・柿・アジサイの3グループに別れてちぎり絵を制作した。子供にも作りやすい簡単な物で、出来上がった時はみな大喜びだった。

早稲田ちんどん研究会

日時：1月21日(火) 学校名：GRAN CAPITAN 小学校

交流場所：学校内体育館 交流対象：小学生 1年生~2年生 100名

初めて見るパフォーマンスや、いっせいで最初に目を白黒させていた子供達も、次第に音楽にあわせてリズムをとり始め、一曲、一芸が終わる度に大きな拍手と歓声。次々と切れ間なく続く質問は、日本の事象から、メンバーの個人的な事まで、興味の幅が広がった。

荒茅盆踊り保存会

日時：1月22日(水) 学校名：I.E.S. GARCIA-BERNALT 中学校

交流場所：学校内体育館 交流対象：中学生 1年生~2年生 100名

ひととおり、パフォーマンスが終わったあと、参加メンバーが、生徒の手を引いて、皆で踊るという場面があった。最初はおもじもじしていた生徒達も、踊りをおぼえるにつれ、楽しそうに踊りを楽しんでいた。打ち解けたあとは、スペインの中学校事情などをにぎやかに雑談していた。

横浜木琴クラブ

日時：1月22日(水) 場所：I.E.S.MATEO HERNANDEZ 中学校

交流場所：学校内体育館 交流対象：中学生 1年生~2年生 100名

校長先生直々の対応で、スムーズに演奏会がスタート。生徒達は、各演奏者に拍手喝采、盛り上がりを見せた。参加者への質問も多岐に渡り、生徒達の日本に対する興味を深さが伺えた。生徒が飛入りで木琴演奏し大盛況の幕を閉じた。終了後、カフェテリアにて校長先生と雑談した。

NPO法人京小町踊り子隊プロジェクト

日時：1月24日(金) 場所：RUFINO BLANCO 小学校

交流場所：学校内体育館 交流対象：小学生 5年生~6年生 100名

美しくあでやかな日本のきものと踊りに子供達は終始魅了されていた。パフォーマンス後、日本の文化や着物に関する質問応答があった。最後にはお寺参の羽子板をみんなで練習し、子供達は満足げな笑顔であった。

草木染工房しかり

日 時： 1 1月23日(木) 学校名： I.E.S Francisco SALINAS 高校

交流場所：学校内 美術室 交流対象：美術生徒 30名

最初は虫持のにおいを放つ大鍋におっかなびっくりだった生徒達も、さすがに美術系だと言う事もあり、飲み込みも早く、上手に染める事が出来た。スペインは硬水のため、日本で染めるよりも鮮やかな赤に染まるということで、生徒達は出来上がった作品を大事そうに持ち帰っていた。

華 鹿

日 時： 1 1月24日(金) 場 所： SDO.CORAZON JESUITINA S 小学校

交流場所：学校内体育館 交流対象：小学生 3年生~4年生 100名

メンバーによるパフォーマンスの後、生徒達への掛け声、踊りの指南。生徒達は、初めて見る鳴子や、音楽に皆はしゃいでいた。途中、折り紙交流を交え、最後はメンバーと生徒達が一つになって踊っていた。会場となった体育館はよさこいのパフォーマンスをするにはやや狭かったが、熱気に包まれながら交流会を終える事が出来た。

奈良社会福祉院 佐保山大鼓隊

日 時： 1 1月24日(金) 学校名： LA INMACULADA Charb 小学校及び幼稚園

交流場所：学校内体育館 交流対象：幼稚園生・小学生 1年生~2年生 100名

日・西の旗とピカチューでお出迎えしてくれた子供達。太鼓体験コーナーでは、とても楽しんで太鼓を打ち鳴らしていた。隊子隊のおねえさんの日本語の質問に、通訳を介せずスペイン語で子供達が答えた場面では、言葉を越えた交流が出来たと感じた。

横浜木琴クラブ

日 時： 1 1月21日(火) 学校名： Escuela Municipal de Musica y Danza (市立音楽舞踊学校)

交流場所：Auditorio de la Escuela 学校内音楽ホール 交流対象：12歳~17歳の約20名

観 客：約300名

木琴クラブの皆様のピアノと木琴によるパフォーマンスのあと、音楽学校の生徒のアコーディオンとプラスバンドの演奏があった。会場は立ち見が出るほどの超満員で熱気にあふれていた。木琴クラブの皆様が用意した折り紙作品を配ると、ステージに子供達が登壇していた。

正派 雅集会

日 時： 1 1月22日(水)

交流場所： Auditorio S an Blas サン・ブラス オーディトリウム

交流対象： Conservatorio Profesional de Musica (公立音楽学校)の呼びかけによるプロフェッショナル楽団 (ピアノ、フルート、バイオリン 7名) 観 客： 約100名

もとは12世紀のロマネスク教会という厳かな建物の中と雅集会の琴の音がみごとに融合する普段では目にする事のできない思い出交流となった。現地の参加者も、日本そして、琴という楽器に興味が深々で、演奏のあとに行われた質問のやりとりも音楽の話を中心に盛り上がった。

2. 音楽交流

元気会チャッキリのりお

日 時： 1 1月23日(木) 交流相手： TUNA メンバー 10名

交流場所： Cum Laude (ライブハウス) 観 客： 約150名

元気会チャッキリのりお様は、ジャパンウィークのためにサラマンカという曲を作ってきており、ノリのよい若い観客は音楽に合わせて踊っていた。TUNAの曲とのコラボレーションも、皆の心を惹きつける軽快な音楽で、チャッキリのりお様の即興演奏と意気投合、大盛況のうちにステージは終了した。

3. 民族舞踊交流

岩手大学民俗芸能サークル「ばっけ

日 時： 11月24日(金) 18:00 ~ 20:00

交流相手： ASOC, DE VECINOS COMUNEROS (21名)

場 所： 国際会議場 茶道会場 観 客： 約80名

日本側からは、手作りの花笠を使った岩手の伝統芸能『三本柳さんさ踊り』を披露した。スペイン側は、サラマンカの民族舞踊『チャロ』を鮮やかな民族衣装や抱え太鼓、笛、カスタネットとともに披露。パフォーマンスの後、約30分ずつ互いのグループに踊りを指南し交流の時間をとり、観客からの参加もあった。太鼓、笛も互いに即興で参加をした。最後に質問、プレゼント交換の時間を設け、日本からは千羽鶴、けん玉やお手玉、独楽、万華鏡といったものプレゼントした。また、開演前の時間を利用して、サラマンカでは著名なチャロの第一人者であるマリケロ氏による演奏の披露があった。

4. その他

大聖堂パイプオルガン演奏 【 岐阜県 今村様 】

日 時： 1 1月23日(木) 場 所： サラマンカ 新大聖堂 観 客： 約400名

岐阜県出身の故辻宏氏が修復した立派なパイプオルガンを岐阜県出身のオルガニスト今村様が独奏するプログラム。小雨の中、山田公使・高村代議士ご夫妻・教会側の参事ら層々たるVIPのご出席があり、8曲もの演奏に耳を傾けていた。多くお集まりいただいた観客の方々も、非現実的な世界に感動していた。

スペイン・ジャパン・学生フィエスタ

日時：11月24日(金)・25日(土) 会場：サラマンカ大学内

早稲田大学書道会 有限会社マンガネットワーク

現地参加グループ：Alumnas de Ikebana del OCHU

(日西文化センター主催、いけバナ教室 / いけバナ小原流 5名)

観客：約100名

早稲田書道会による、書道の実演パフォーマンス、マンガネットワークによるマンガのできるまでの過程説明、いけバナ小原流による生け花パフォーマンスがそれぞれ終わったあと、質疑応答、希望者による体験が行なわれた。質問シートを用意していたが、ほとんどの会場は、質問がじかに飛びかい、終始楽しいムードだった。

元気会チャッキリのりお 早稲田ちんどん研究会

現地参加グループ：Coro Universitario (サラマンカ大学 / コーラスサークル)

観客：約50名

日本の学生とサラマンカの学生が個別交流をすることを目的としたプログラム。コーラス交流というテーマを設け、両国学生がそれぞれのパフォーマンス披露やコーラスに関してディスカッションなどを行った。ディスカッション形式での交流は、両国学生同士の質問コーナーを設定し両国の文化に対して躊躇の無い意見が飛び交い、大変有意義なものになった。



元気会チャッキリのりお、NPO法人京小町踊り子隊プロジェクト、 岩手大学民俗芸能サークルばっけ

現地参加グループ：Tuna Femenina de Universidad de Salamanca

(サラマンカ大学 伝統舞踊TUN A 女性音楽隊 9名)

観客：約50名

日本の学生とサラマンカの学生が個別交流をすることを目的としたプログラム。「ファッション」というテーマを設け、両国学生がそれぞれのパフォーマンス披露や伝統衣装に関してディスカッションなどを行った。ディスカッションでは質問コーナーを設定し、伝統衣装に関してかなり専門的な質問もあり大変有意義なものになった。

早稲田大学邦楽雑子つづみの会 華鹿

現地参加グループ：Fans de Gackt (Gackt ファンクラブ 3名)

観客：約100名

早稲田大学邦楽雑子つづみの会の演奏後、希望者によるワークショップがあった。華鹿はよさこいを披露後、観客全員参加で踊りを学び、司会ボランティアを含めた皆で踊った。会場は熱気を帯び、大変な盛り上がりであった。日本からの参加者の中にもガクトファンが多く、どのようにしてスペインの女の子がガクトファンになったのかと言う話に熱心に耳を傾けていた。

有限会社 マンガネットワーク

交流相手：Aficionados del Manga en Salamanca (サラマンカ・マンガ同好会) 2名

観客：約100名

マンガネットワークの映像が流れた後、3者でまんが・おたくについての討論、質疑応答などがあった。会場は立ち見が出るほどの満員で中にはコスプレの衣装を着て聞きに来ている観客もいた。

野外宣伝

日時：11月22日 10:00 ~ 12:00 早稲田ちんどん研究会
11月23日 10:00 ~ 12:00 岩手大学民俗芸能サークルばっけ

場所：22日 マヨール広場~旧市街
23日 マヨール広場

観客：22日 約500人
23日 約300人

22日の早稲田ちんどん研究会は、始めた当初、人がまばらだったものの、にぎやかな音楽と鮮やかな衣装にみるみるうちに人垣ができた。また、この様子は大々的に新聞に取り上げられた。23日の岩手大学民俗芸能サークルばっけは、広いマヨール広場に大きく円を書くように行なわれた。見慣れない衣装に人々は目を奪われ、終了後是一緒に写真を撮ろうと沢山の人が押しかけた。

西日本友好親善訪問団 交流プログラム

1. 日西センター訪問交流

日 時： 11月20日(月)・22日(水)・24日(金) 場 所： 日西センター

西日本各地から有志が参加している西日本友好親善訪問団は、11月20日と22日そして24日の3回、日西センターを訪問し親善交流を行った。日西センターは日本の天皇、皇后陛下が皇太子時代を含めて2度サラマンカをご訪問になったことを契機に、サラマンカ大学が日本とスペインの相互理解を深めるために設置した同大学の一機関である。現在は日本語及び日本研究講座のほか、他の言語の研究機関としても機能しており、市民向けには日本語をはじめとする各国語講座、各種文化イベントや教室、ワークショップなどが適宜開かれてい

る。今回は日本語講座の案内でこの日西センターの内部を見学するとともに、講義室では日西センターで日本語を学ぶスペイン人生徒の皆様と訪問交流行事を行った。日西センターのアントニオ館長のご挨拶に始まった訪問交流行事は、続いてスペイン人生徒代表のスピーチタイムとなり、3名の代表者が何故日本語及び日本に興味を持ったのか、また将来的にどう日本とかわかっていたいのかという点を切り口にスピーチを展開、訪問者一同興味深く聞き入った。特にスペイン人が見た日本人像についての話題では一同爆笑の渦となった。スピーチの後はお互いの質問、意見交換となり、両国の料理や日本のアニメ、マンガといった”やわらかい”話題から、少子化に悩む両国の結婚観の違いといった少々”硬い”話題まで大いに盛り上がり、あっという間の1時間が過ぎ去った。

終了直前に訪問団が西日本各地から持ち寄った郷土のお土産をスペイン人生徒の皆さんに手渡しすると、会場は歓声に包まれた。そして最後は日西センターの今後の日本語及び日本研究に役立てていただくため、訪問団より日西センターへ日本語のOS(基幹ソフト)が入ったノートパソコンを2台寄贈、両者の固い握手でプログラムは終了した。

2. サラマンカナイト

日 時： 11月20日(月)・22日(水)・24日(金) 場 所： エル・カシノ・デ・サラマンカ

今回ご参加いただいた西日本友好親善訪問団の参加者に感謝の意を表するため、(株)日本旅行がエル・カシノ・デ・サラマンカにて夕食会「サラマンカナイト」を開催。20日は金井和夫氏/株式会社日本旅行代表取締役社長、22日は兵田剛明氏/実行委員会事務局長、24日は山岡孝典氏/同社西日本営業本部副部長が主催者として参加者をお迎えした。夕食会は主催者の挨拶に始まり、続いて乾杯のご挨拶を各回参加者代表が行った。参加者はイベリコ豚をはじめとしたサラマンカの郷土料理に舌鼓を打つとともに、夕食の間には地元サラマンカのフェデリコ・ガルシア・ベルナルト中学校合唱部の合唱や、イスパニカ音楽学校の少年少女ギター演奏団のギター演奏を楽しんだ。

特に日本の合唱曲「夢の世界を」の合唱では、サラマンカの地で聞く日本語の歌声が聴衆一同に大きな感動を与え、終了時には拍手喝采となった。そして最後はスペインの情熱と哀愁の舞「フラメンコ」に一同酔いしれ、夕食会は盛りだくさんのうちに幕を閉じた。

クローシング・フィエスタ

日時：11月26日<実施場所> サンチェスパライソ

両国実行委員会列席代表者

<日本側>

吉川 元偉 日本側実行委員会名誉顧問 / 在スペイン日本国大使館 特命全権大使

浜田 輝明 日本側実行委員会事務局長

<スペイン側>

フリアン・ランサロテ・サストレ スペイン側実行委員会理事 / サラマンカ市長

ヘス・ロドリゲス・ロモ スペイン側実行委員会理事 / カステイーリャ・イ・レオン州 観光省長官

フリオ・ロペス・レブエルテ スペイン側実行委員会理事 / サラマンカ市助役

参加者：早稲田ちんどん研究会 6名、岩手大学民俗芸能サークルばっけ 25名、

NPO 法人 京小町踊り子隊プロジェクト 20名、華鹿 15名

チャロ4グループ

Mariquero + Charro Comuneros

La Corrobla + Lose Manuel Busto

Asociacion Traje Charro

Navega

観客数：2,500名

12月22日の時点で、諸々のリスクヘッジを考えての市側との協議で、マヨール広場での開催ではなく、雨天用代替会場であるサンチェスパライソ多目的ホールでの正式開催がすでに決定された経緯があり、観客の入り具合がとても心配されたが、スペイン側実行委員会の新聞誌上での開催場所変更のお知らせ等により2,500名の観客が来場し双方の関係者が安堵した。フィエスタでは、日本側スペイン側交互に演目を披露し、最後のフィナーレでは両国の出演者・観客を交えての長い踊りの行列が出来るほど盛り上がり、後味の良いジャハソウウィークの締めになった。



2)「日韓交流おまつり2006」

期 間：9月23日(土)・9月24日(日)
開催地：ソウル市鐘路区大学路

日韓交流おまつり2006 開催概要

1. 開催地：韓国ソウル特別市鐘路区（チョンノク）大学路（テハンノ）
2. 開催期間：2006年9月23日（土） 24日（日）
3. 開催規模：
 - (1) 出演者数 日本側： 17団体 500名
韓国側： 31団体 1,100名
 - (2) 観客数 延べ5万人
4. 主催：「日韓交流おまつり2006」実行委員会
5. 日本側事務局：財団法人国際親善協会
6. 後援：日本側...在大韓民国日本国大使館、国土交通省、国際観光振興機構、ソウルジャパンプラブ、青森県、秋田県、
韓国側...外交通商部、文化観光部、韓国観光公社、MBC放送
ソウル特別市鐘路区、社団法人大学路文化発展委員会
7. 協力：独立法人 国際交流基金 / 財団法人 日韓文化交流基金

1. 日韓交流おまつり2006」の企画趣旨

2005年日韓国交正常化40周年を記念したイベント「日韓友情年2005」の主要事業の1つとして行われた「日韓交流おまつり」は、ソウル市鐘路区(チョンノク)大学路(テハンノ)で行われ、5万人もの観客にイベントを楽しんでいただいた。

このような成功を踏まえ、日韓両国の市民レベルでの相互交流・理解を促進するための継続事業として「日韓交流おまつり2006」を行うこととなった。

2. イベントの構成

会場はソウル特別市鐘路区大学路とし、1部は日韓の伝統・民俗芸能の公演(大学路の車道に仮設ステージを設置)、2部は日韓伝統芸能を中心としたパレード(大学路の車道600mを使用)、3部は韓国側学生実行委員会の公演(マロニエ公園の野外ステージを使用)、4部は日本の自治体紹介(マロニエ公園内にブースを設置)という構成とした。

3. 参加団体

(1) 日本側参加団体

今回は秋田県の「秋田竿燈」、青森県の「津軽三味線」、岩手県の「鬼剣舞」など郷土芸能の5団体に加え、立命館大学のスポーツバトンチームや、よさこいグループなど合計17団体が参加。

前回と比較すると「青森ねぶた」のような大型の参加団体がなかったため、大型の山車を使用するような迫力のある団体に参加してもらいたかったとの声もあった。

(2) 韓国側参加団体

韓国の伝統芸能、現代的なダンス、打楽器グループ、地方の民俗芸能などを披露する同系31団体が参加。特に今回は、重要文化財に指定されている「シム・ファヨン僧舞保存会」「山ノングバウ・クシギ」「麗川公處農謡保存会」など数多くの民俗芸能が披露された。このような地方の民俗芸能は本来その地方でしか見られない芸能で韓国側観客からも初めて貴重な文化財を見る事が出来て良かったとの声が多数寄せられた。このようなプログラムは、今後の「日韓交流おまつり」の1つの方向性を示していると考えられる。

4. イベントの実施状況

(1) 前夜祭（レセプション）

日 時 / 2006年9月22日（金）17：40～20：30

場 所 / ロッテホテル蚕室 B1サファイア・ボールルーム

主 催 / 在大韓民国日本国大使館

参加団体 / 日本側8団体 韓国側23団体 100名

協賛企業 / 35名

来 賓 / 40名

大使館招待 / 90名

報道関係者 / 15名

大使館関係者 / 40名

運 営 / 日本側実行委員会事務局

司 会 / ササベケイコ / キム・ジョジュヨン

紹介演舞 / 日本側＜秋田竿灯 / はなこりあ＞

韓国側＜キム・ジンオク舞踊団 / カヤグム Ensemble〔弦〕＞

おまつり前日の22日、蚕室ロッテホテルB1サファイア・ボールルームにおいて、大島正太郎駐民国日本国大使主催のレセプションを行った。日本側主催を代表して大島大使、韓国側来賓を代表としてイ・ギュヒョン外交通商部第二次官より挨拶を頂き、司会者よりおまつり参加団体が紹介され、各団体の代表者が登壇した。

各団体の紹介・登壇の後、日本側を代表して、小倉紀蔵実行委員、韓国側を代表して、キム・ヨンウン実行委員長より激励のお言葉があった。団体の集合写真撮影、降壇後、韓国側来賓代表カン・シンホ韓国全国経済人連合会会長の音頭で乾杯を行った。

参加団体からは日本側8団体各3名ずつ、韓国側23団体各2名ずつの約100名が集合、代表として日本側から秋田竿灯・はなこりあ、韓国側からキム・ジンオク舞踊団・カヤグム Ensemble〔弦〕が華やかに演舞を披露した。

(2) おまつりメインステージ

メインステージ

大学路に仮設ステージを設置。メインステージは8時の交通規制開始と同時に設置作業に入り、10時過ぎにはセットアップすることが出来た。

司会者とコメンテーター

メインステージの司会はMBC文化放送の「パク・ソヒョン」さんを起用した。また、日本側・韓国側の演目の解説役として金居講師にお願いし、パクさんと2人で進行役を務めていただいた。前回同様に金居講師には日本側の演目がわかりやすくなるように説明いただいた。

オープニングセレモニー

13時より「日韓交流おまつり2006」のオープニングセレモニーを行った。司会のMBC文化放送パク・ソヒョンアナウンサーが日本側として在大韓民国日本国大使大島正太郎名誉委員、金井耿実行委員、小倉紀蔵実行委員、高杉暢也実行委員、そしてご来賓の三村申吾青森県知事を紹介し、次に韓国側としてキム・ヨンウン実行委員長、チョン・ギョングン実行委員、ご来賓のクォン・ジュンス鐘路区副区長、フン・ギソ鐘路区議会議長、ユン・ヨンウン実行委員長が挨拶した。

観客動員

土曜日の13時からのスタートであったため、スタート時点では観客は多くなかった。また、この日はこの季節にしては日差しが強かったため、直接日光が当たる道路上を避けて日陰の歩道側で観ている人々が多くいたが、ステージ進行と共に観客が集まるようになり、終了時には4,000名もの観客が集まった。

本番の開演時間

予想以上に多くの団体が参加するため、プログラムの構成上、メインステージの開演を前回より早め13時開演とした。しかし、土曜日であったため開演時にはまだ観客が少なく、途中から人が集まってくるという状況であった。

(3) おまつりパレード

事前準備

韓国側出演団体がパレード形式に慣れていなかったことと、コミュニケーション不足が原因で一部進行の遅れが生じたが、全体としては規制時間内にパレードを終了することができた。

観客動員

パレード開始時には、大学路の両側の歩道に多数の観客が集まっていたが、パレードがスタートすると、観客はどんどん増え、両側の歩道を埋め尽くす勢いになり、歩道が一部進行出来ない状態となった。

パフォーマンスエリアの設定

韓国側のパレード形式に馴染みのない出演団体のために、パフォーマンスエリアを2箇所設置し、そのエリアまでは普通に行進してもらい、エリアに来たらパフォーマンスしてもらうことにした

パレード出演団体は韓国側18団体、日本側15団体で合計33団体になり、出演人数は1,250名になった。全体を3部構成にし、1部は管楽隊、バトントワラー、コスプレ、現代ダンスなどをまとめて「リズム&パワー」第2部は「日韓伝統芸能」とし、日韓の伝統芸能15団体が参加、第3部は「日韓よさこいフェスティバル&竿燈」としてよさこいグループ10団体が参加するとともに、秋田竿燈がフィナーレを飾った。

大学路の交通規制について

大学路の車両を全面的に使用するため、8時から16時までは大学路の南から北に向かう4車線を規制し、パレード時の16時から21時までは6車線を全面規制した。進行が少し遅れたものの規制時間内にパレードを終了する事が出来たため、午後の規制終了時に混乱等はなかった。

(4) マロニエステージ

会場設営

マロニエ公園の屋根付き野外劇場（TTL広場）に仮設ステージを設置

マロニエステージの運営

学生実行委員会の自主運営とした。大学生中心の8団体が出演し、15分間で次々とプログラムが入れ替わる構成となっており、観客を飽きさせない様、配慮した。

観客動員

13時から15時30分の公園時に、常時300名～400名の観客が見学し
2時間30分の公演時間で延べ人員は2,000名強。

(5) 自治体出展ブース

マロニエ公園内に青森・秋田・岩手・熊本・沖縄・JNTO（国際観光振興機構）のブースを設置し自治体の紹介及び日本の観光案内を行った。

5. 全体の総評

開演時間については問題があったが、全体的には約5万人の観客が集まり、日韓両国の伝統的・現代的な「おまつり」をソウル市民の人々に楽しんでもらうことが出来た。「おまつり」というコンセプトによる日韓両国民レベルの相互交流を2年続けて実施したことにより、本イベントはソウル市民に定着したように思える。今後は「日韓交流おまつり」のプログラムをより充実させ、発展させることが重要課題といえる。

3)「ザ・フレンドシップ・フォース」活動支援事業

期 間：通年

対 象：全国各フレンドシップフォースクラブ

3) ザ・フレンドシップ・フォース活動支援事業 2006年度事業

1. 事業名 : フレンドシップ・フォース(略称: FF)活動支援事業
2. 事業内容:
 - a. 日本のクラブと本部(アトランタ)との連絡事務補助・翻訳
 - b. 日本のクラブの相互交流支援
 - c. 新クラブの設立支援
 - d. 宣伝等包括的対外活動
3. クラブ総数(日本国内): 24クラブ
会員数 約1,500人
4. 日本のクラブの交換(2006年):
 - a. 受入交換 15(約405人来日)

参加国・・・オーストラリア、アメリカ、イギリス、ニュージーランド、ブラジル、ウクライナ、クロアチア、コスタ・リカ、シンガポール、ロシア
 - b. 渡航交換 19(約338人渡航)

訪問国・・・アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリス、ニュージーランド、タイ、ロシア、タイ、ベトナム、オランダ、ベルギー、ドイツ、メキシコ
5. 大会(予定)
 - 1) 日本大会 日時: 2006年6月17日~18日
於: 山形クラブ、山形市
参加者: 本部より会長、ジョージ・ブラウン氏
愛知会長 基調講演 参加者: 24クラブ165名
 - 2) アジア・パシフィック・フェスティバル(第2回)
日時: 2007年4月4日~8日
於: 日本、愛知クラブ、名古屋市
参加者: 122名(7カ国)日本より80名
 - 3) 世界大会
日時: 2006年10月12日~10月15日
於: アイルランド、ダブリン市
参加者: 340名(18カ国、うち日本より30名)

2007年創立30周年記念大会: 2007年3月1日~2日
於: アメリカ、ジョージア州 アトランタ市
参加者: 520名(24カ国、うち日本より10名)

受入クラブ名	日程	担当クラブ	人数	ED	FFIの担当
Belem, Brazil	3/26-4/02 4/02-09	大阪 熊本	12	森本 吉彦 坂田(早田)	Charles Simmons
North Moreton, Australia	3/22-29	愛知 高雄・台湾	14	西村貴美子	Maryam Jordan
Lugansk, Ukraine	4/23-30	愛媛	21	鈴木 節子	Debbie Powell
Salisbury/Northern District, Australia	4/03 - 10 4/10-17	埼玉 岐阜	21 18	沼 純子 川岸 博子	Maryam
Zagreb, Croatia	4/14-21	東京 福岡	11 12	滝田 美津子 中村 佳代	Mary Mwambay
Western N Carolina/Shelby/Florence, USA	5/08-15	山口 大分	21 20		Debbie
Heredia, Costa Rica	9月	東京 愛知	-	キャンセル	Charles
Nagyang, Singapore	6/03-11	札幌	20	大西慶子	Charles
Santa Barbara, USA	5/25-6/01	三重 宮城	16 17	山城やよい 五嶋由起子	Debbie
Hobart, Australia	5/14-21	東京 京都福知山	23	飯沼和華子	Maryam
Ankara, Turkey	10/24-30	愛媛 鳥取	18 -	峯 洋子 キャンセル	Maryam
Great Falls, USA	9月	山形 新潟	-	キャンセル	Debbie
Sydney, Australia	10/25-11/01 11/01-6	郡山 札幌 長崎	26 20 26	平 伸子 武田加代子	Maryam
Alajuela, Costa Rica	9/20-27 9/27-10/04 10/04-11	東京 愛知 太田群馬	24	平沢 俊子 坂庭 捷昭	Charles
Korolev, Russia	11/04-11	長崎	14		Peter May
Seattle-Takoma, USA	10/26-11/01 10/19-26	西東京 静岡	15	今村 佐知子	Debbie
Western Bay of Plenty, New Zealand	10/22-29	東京 奈良	16	谷口 正子 合田さわ子	Maryam
Mistery Exchange, USA	11月	福岡	20	松本 正規	
Sunshine Coast, FL USA	10月	広島	-	キャンセル	
合計・交換数		参加会員数	405		

担当クラブ	日程	訪問クラブ名	人数	ED
愛知	4/26- 5/10	Hannover, Germany, & Belgian Coast, Belgium	18	富岡 達也
奈良	5/9-14	Kempsey, & Cairns, Australia	22	佐々木 啓子 合田 さわ子
広島	4/30-5/06	Lincoln, & Atlanta, USA	6 -	中垣 健一 キャンセル
長崎	3/14	Kauai, & Orange County, USA	13	
太田群馬	5/16-24	Bristol, UK	22	宮崎 恭
鳥取	5/8-14	Central Coast, Australia	20	寺岡 利雄
東京	6/15- -7/1	Northern Illinois, & Greater Milwaukee, USA	20	渡辺 栄
静岡	5/16-	Mundo Maya, Mexico	13	
福岡	6/28-	Ottawa, Canada	17	厚東 幸子
郡山	8/17-22	Moscow, Russia	16	矢吹 光子
岐阜	8/20-	Missouri-St.Louis & Western Montana-Missoula, USA	15	渡辺 清子
大分	7/24-	Decatur High School & Memphis, USA	14	
東京	8/28- -9/12	Zagreb, Croatia & Gelsenkirchen, Germany	17 13	松岡 幸子
山口	8月	Noord, Netherlands	-	キャンセル
福岡	9月	Halle-Salle, Germany	-	キャンセル
三重	10/15-22	Christchurch, New Zealand	16	吉川 邦子
宮城	9月	Sofia, Bulgaria	-	キャンセル
埼玉	9/10- -24	Huntsville, & Louisville, USA	19 18	稲垣 洋子
札幌	9/14-21	Leicestershire, UK	14	高井 葉子
京都福知山	10/01-	Birmingham, USA	11	
大阪	10/19-25	Naphon Ratchasima, Thailand	8	大下 すみ子
熊本	11月	Perth, Australia	-	キャンセル
東京	11/09-19	Vietnam	10	中山 敬子
愛媛	7/31- -8/14	Norderstedt, Germany & Oxfordshare, UK	16	佐藤 学
合計			338	